

# city @ life

都市のしくみと暮らし

no.77

autumn

2005



特集

公共空間、新たな視点





表紙—練馬区「けんか広場」(関連記事:p12) /  
裏表紙—名古屋市「ノリタケの森」(関連記事:p18)  
photo:西村陽一郎

特集

公共空間、新たな視点

contents

インタビュー	「公共性」の三つの概念   齋藤純一	2
	町家文化の公共性   谷直樹	8
	「鈍さ」の公共空間   町村敬志	13
	移動・転移・変転する公共空間   毛利嘉孝	26

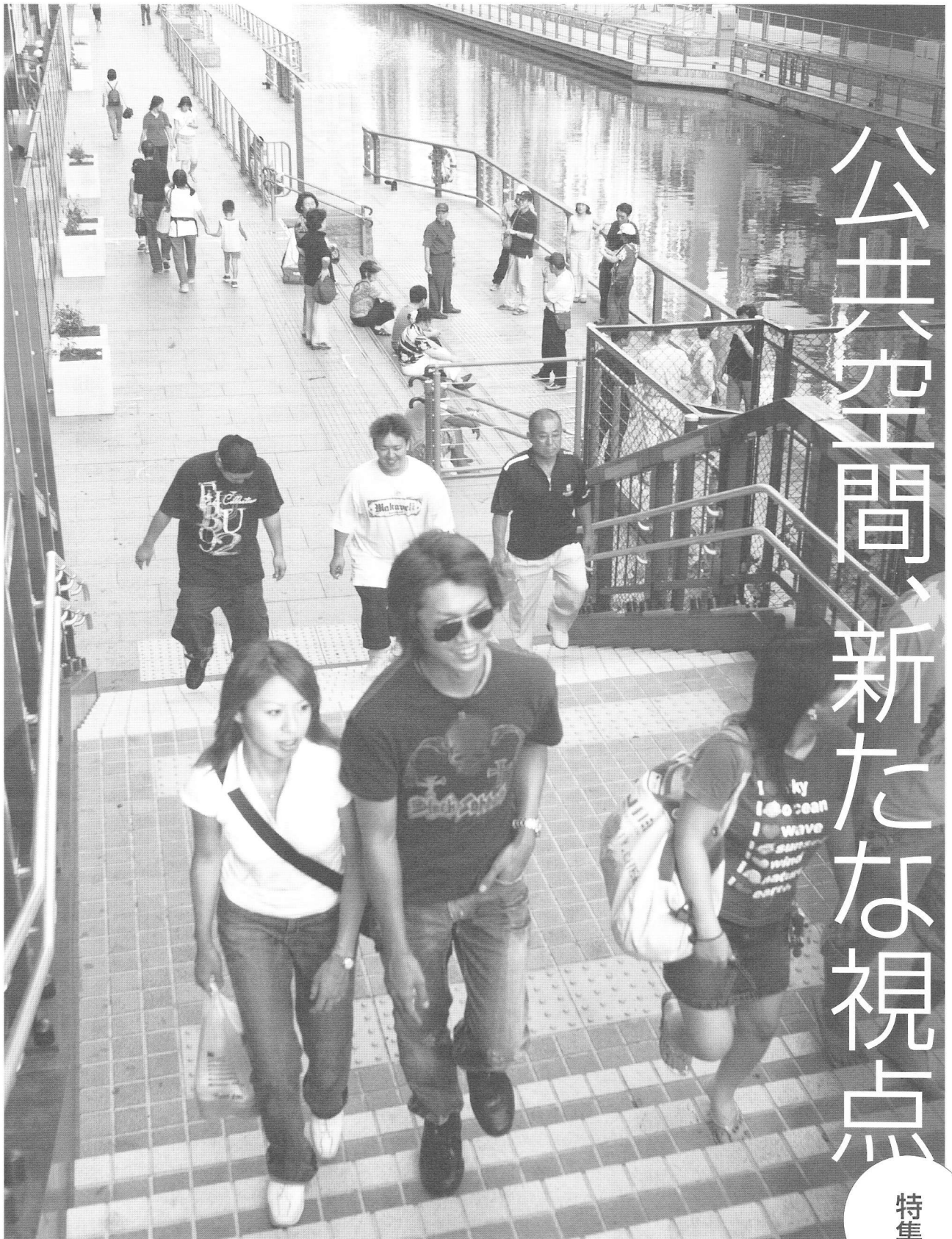
写真ルポ | コモンの風景……公共空間を探しに行こう!

①	法然院   京都市左京区	6
②	けんか広場   東京都練馬区石神井台	12
③	MARUNOUCHI CAFE   東京都千代田区丸の内	17
④	ノリタケの森   愛知県名古屋市西区	18
⑤	とんぼりリバーウォーク   大阪市道頓堀川	20
⑥	ブルームーン   神奈川県葉山町一色海岸	21
⑦	神谷町オープンテラス (浄土真宗本願寺派光明寺)   東京都港区虎ノ門	22
⑧	海とのふれあい広場   大阪府堺市築港	23
⑨	どんぐりひろばプロジェクト   愛知県名古屋市	24
⑩	サロンド・カフェ・こもれび (自立生活サポートセンター・もやい)   東京都新宿区新小川町	30

	公共空間の変容と社会的排除   ニューヨークの事例を中心に   小玉徹	32
--	-------------------------------------	----

ルポ	公共スペースとしての海の家   渡邊裕之	36
----	----------------------	----

	back number・information	40
--	-------------------------	----



# 公共空間、新たな視点

特集

新自由主義による市場原理主義とグローバリゼーションが猛威をふるった90年代、自己決定・自己責任を根拠とする個人主義の徹底化が進んだ。その結果、「公共性」を閉塞させる力学が働き、その危機意識が逆に「公共性」への関心を惹起させた。他方、市民によるアソシエーション活動（NPO、NGO、ボランティア団体）が活発化し、中間集団として公／私を媒介する「市民的公共性」が台頭してきた。いずれも現代の都市空間を主なフィールドとしているのが特徴である。都市を場とする新たな意味での「公共性の構造転換」が起こり始めているのだ。現代都市において「公共性」とは何を意味するのか。変貌する「公共性」概念を見据えながら、都市空間における「公共性」のあり方を検討する。

photo: 西村陽一郎「とんぼりリバーウォーク」(関連記事:p20)